

# Bloom

品川区商店街連合会 事業紹介ガイド  
Shinagawa Ward Shopping Street Federation

花咲く未来へ







# Bloom

地域への愛着でまちを开花させる。  
商店街という文化をアップデートしながら、  
次世代へつなげる土壌づくりをしています。

# Our vision

昭和初期頃から出来はじめた「商店街」。  
お客様にあたたかさや親しみやすさ、  
そして安心安全なコミュニティの中で生活できる豊かさを提供し続けてきました。

時代とともに、商店街の在り方も変容が求められ、  
リソース不足の中どうやって次世代へバトンを渡していくのか、  
加盟商店街は模索しながら様々な活動をしています。

花を咲かせるためには、土壌の手入れが必要なように、  
見えないところで「商店街」という文化を守り、活動している人たちを支えていきたい。

品川区商店街連合会は、加盟商店街がもつ魅力や価値、そして課題を  
地域のステークホルダーやサポーターに伝えながら、プレーヤーと共に  
新たな商店街の土壌づくりをお手伝いしていきます。

会長より皆さまへ



商店街は地域住民にとってなくてはならない  
「ふるさと」です。

「商店街の近くに住んでよかった」お客様にそ  
う思って頂けるように、

時代のニーズに即した商店街サービスの導入支  
援や次世代の担い手となる人材育成支援を積極  
的に推進して参ります。

品川区商店街連合会/品川区商店街振興組合連合会  
会長 亀井哲郎 (戸越銀座商店街連合会 広報)

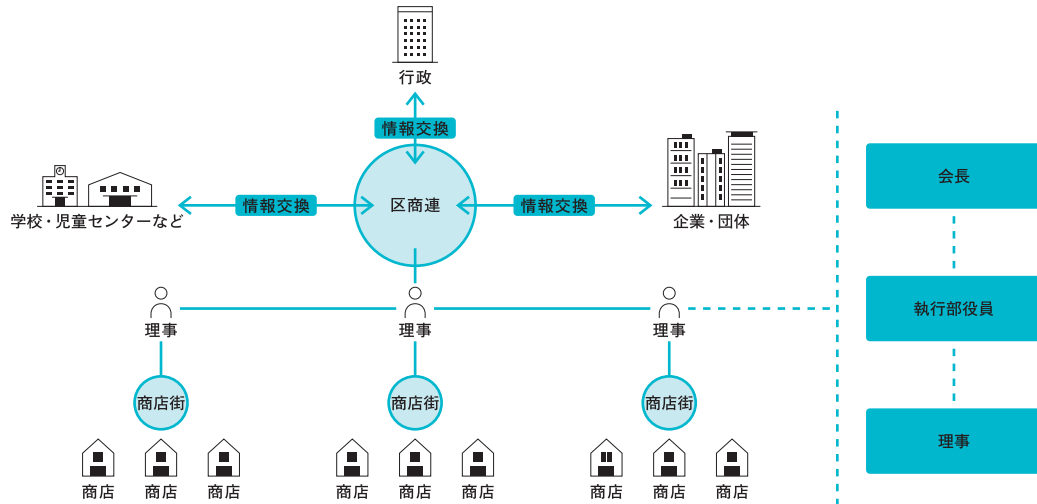
戸越銀座の時計・眼鏡販売店「ギャラリーカメイ」に生まれ、家業を  
継ぐ。若くして戸越銀座銀六商店街振興組合理事長に就任。現在は  
戸越銀座商店街連合会の広報を担当。商店街のブランド化に取り組  
み、戸越銀座を全国区の商店街に育て上げた。2023年5月、品川区  
商店街連合会の会長に就任。

著書「街の灯りふたたび 戸越銀座商店街物語」

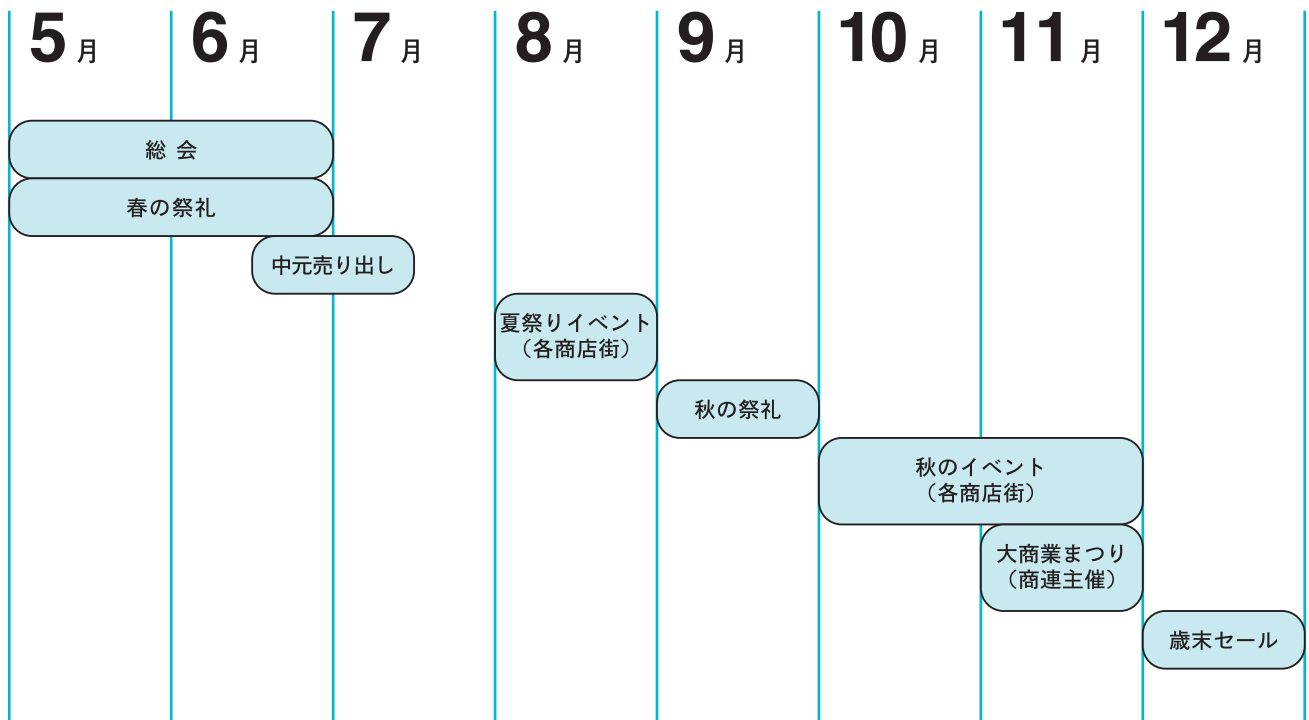
## 品川区商店街連合会 / 品川区商店街振興組合連合会 組織概要

設立： 昭和31年  
 総組合数： 68  
 （商店街(会) 48 / 振興組合 18 / 協同組合 2）  
 賛助会員数： 11社  
 総会員数： 2,916

※R6年6月時点



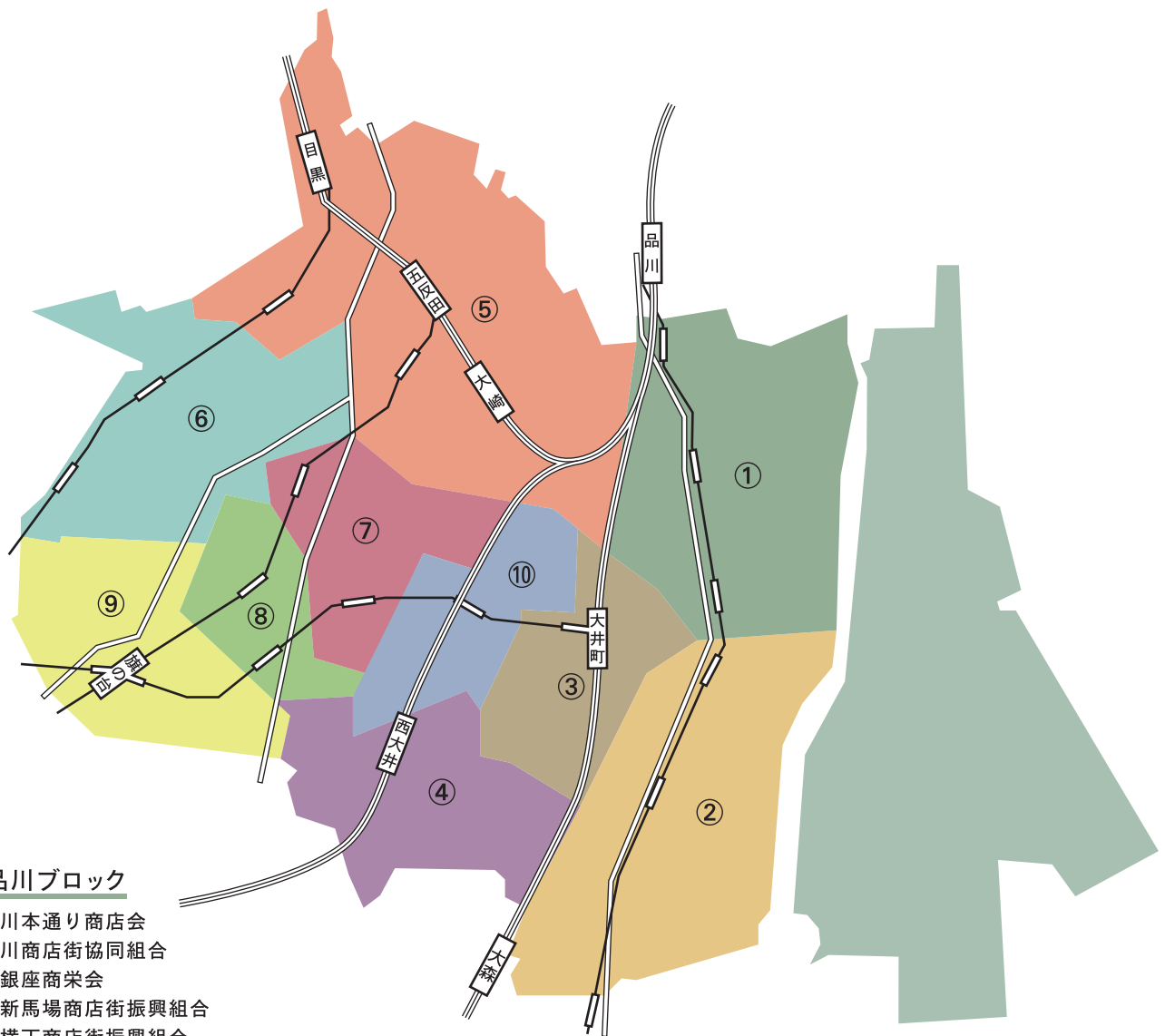
### 区内商店街1年の流れ



#### 事務局

東京都品川区西品川1-28-3 中小企業センター 4F Tel.03-5498-5931 / Fax.03-5498-5933  
 アクセス：東急大井町線「下神明」駅 徒歩2分、JR京浜東北線・りんかい線「大井町」駅 徒歩10分





### ①品川ブロック

- 北品川本通り商店会
- 北品川商店街協同組合
- 品川銀座商栄会
- 京急新馬場商店街振興組合
- 青物横丁商店街振興組合
- 品川宿場通り南会
- 南馬場商店会

### ②大井海岸ブロック

- 鮫洲商店街
- 立会川龍馬通り繁栄会
- 立会川駅前商店会
- 立会川駅西口商店街
- 桜新道共栄会
- 見晴し通り商店会
- 桜新道商盛会

### ③大井町駅周辺ブロック

- 大井銀座商店街振興組合
- 大井すずらん通り商店会
- 大井東口商店街振興組合
- 大井サンピア商店街振興組合
- 大井一本橋商店街振興組合
- 大井三ツ又商店街振興組合
- 大井本通り商店街
- 大井光学通り商店街
- 大井駅前中央通り商店会

### ④西大井駅周辺ブロック

- 原町商店会
- 伊藤町商店会
- 山王銀座商店会

### ⑤五反田・大崎・目黒ブロック

- 百反商店街振興組合
- 大崎駅西口商店会
- 五反田商店街振興組合
- 五反田駅前商店会
- 目黒駅前商店街振興組合
- 不動前駅通商店街振興組合
- 大崎ニューシティ店舗会
- ゲートシティプラザテナント会

### ⑥小山ブロック

- 親友会通り商店街
- 武蔵小山一番通り商栄会
- 武蔵小山商店街振興組合
- 武蔵小山西口商店街振興組合
- 西小山東栄会
- 西小山商店街協同組合
- 小山26号線通り振興会

### ⑦戸越ブロック

- 平和坂通り商店会
- 戸越銀座銀六商店街振興組合
- 戸越銀座商店街振興組合
- 戸越銀座商栄会商店街振興組合
- 宮前商店街
- とごし公園通り商店会
- ゆたか商店会
- 戸越公園駅前南口商店会

### ⑧中延ブロック

- 荏原中延東栄会商店街振興組合
- 昭和通り商店会
- 中延商店街振興組合
- 中延駅前通り商店会

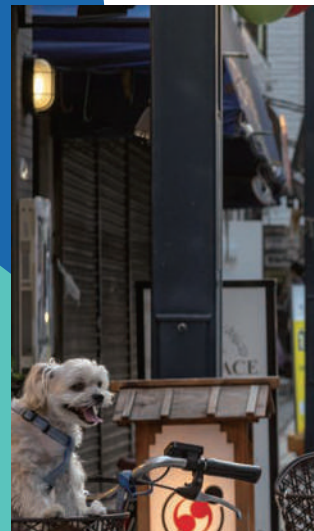
### ⑨旗の台ブロック

- 旗の台五丁目商店会
- 旗の台四丁目商店街
- 荏原町商店街振興組合
- 旗の台稲荷通り商店会
- 旗の台三丁目商店会
- 旗の台中央商店街
- 旗ヶ岡商店会
- 旗の台東口通り商店会

### ⑩二葉ブロック

- のんき通り商店街
- 二葉中央商店会
- 二葉二丁目共盛会
- 二葉神明商店会
- 二葉三丁目進和会
- 二葉四丁目共栄会
- 二葉一丁目商店会

# Interview



商店街からはじまる、  
地域活性の現在地





作りたい未来のヒントはいつも現場に。

地域への愛着から商店街活動をジブンゴトとしてとらえ

日々活動している9商店街の役員さんにインタビュー。

長年役員を務めている方から新たに関わるようになった方まで、それぞれの思いを伺いました。

「活性化」という言葉だけでは語り尽くせない、品川区内商店街のリアルな姿をお届けします。

戸越銀座商店街連合会

# 人気にあぐらをかかず、つねに変化を続けたい



左上から時計まわりによりみちとごしの石川潤さん、  
戸越銀座商店街振興組合の理事・松尾富之さん、戸越銀座商店街振興組合の理事・遠藤利夫さん、  
戸越銀座商店街振興組合の石川弘樹さん、戸越銀座商店街振興組合の横地真理子さん





関東でも有数の商店街として、外国人観光客にも人気の高い戸越銀座。東急池上線「戸越銀座駅」から全長約1.3kmにわたる一直線の道路上には約300軒もの店舗がズラリと並ぶ。この一帯におけるイベントや各種施策は、戸越銀座商栄会商店街振興組合、戸越銀座商店街振興組合、戸越銀座銀六商店街振興組合の3つがそれぞれに工夫しながら運営し、賑わいを創出。戸越銀座の名を冠したステッカーやTシャツ、オリジナルキャラクターの戸越銀次郎グッズなどが毎日、飛ぶように売れ、平日でも人の往来が1万人を超えるほどの人気だ。そんな商店街の魅力について、戸越銀座商店街振興組合の専務理事を務める松尾富之さんはこう話す。

「地元住民の生活と密着した下町特有の雑多な雰囲気が特徴ですね。真っ直ぐに伸びた道は本当に見通しが良く、電線や屋根がないので空がとてもキレイに見え、ただ散歩するのも気持ちいいですよ。道幅が狭くどこも賑わっているので、何度でも往復したくなる雰囲気があって」

よりみちとごしの石川潤さんはこう付け加えた。

「八百屋、肉屋、多様な料理店から生活雑貨まで。とにかくスケールが大きいから何でも揃う便利さはやっぱり強いですよね。住民はその便利さに惹かれ、その賑わいを観光客も面白いと感じてしまうのでは」

商店街に属する店主たちの「戸越銀座愛」もこのエリアならではの強みだ。

たとえばオリジナルグッズを多数デザイン、販売し、特別な人気を誇る雑貨店「瀬尾商店」の横地真理子さんはこう語る。

「私自身、この商店街が大好きだから色々なグッズを企画、制作するんですけど、お客さんからの提案でグッズを企画するということもあるんです。もうこの商店街が好きすぎて、自分も何らかの形でこの街に参加したいというお客さんが多数いるということ。各商店がお客さんと密なコミュニケーションを大切にしていることも、この商店街の人気の理由なのかもしれません」

石川潤さんは、あまりに深い戸越銀座愛から自発的に周辺エリアを紹介する大規模なウェブサイト「よりみち、とごし。」を制作。今では、商店街の多様な情報をチェックできるサイトとして多くのユーザーに利用されている。

「誰かから頼まれたわけではないのですが、この商店街は本当に魅力的だと私自身、感じていて、戸越銀座をもっと多くの人に知ってもらいたいという思いからこのサイトを立ち上げたんです」

さらに、戸越銀座で屋根のリフォームなどを事業として請け負う「石川商店」の三代目社長・石川弘樹さんはユニークな取り組みで商店街の知名度アップに貢献する一人だ。

「仕事柄、屋根のことをたくさんの人に理解してほしいなと思って、3年ほど前、瓦割りのイベントを実施したんです。空手と瓦をセットにしたイベントなんですけど、日本の伝統文化を体験で

きるとあって外国人観光客や子どもたちに大好評。今では階級を設けて認定証を贈呈するなど、瓦割りが観光目的のひとつにもなっているのかなと感じます。うちの商店だけでなく、各事業者の新しいアイデアや盛り上げようという気持ちが、商店街の振興に一役買っているのは間違いありません」

断続的に開催される大規模なイベントももちろん集客に大きく貢献。中でもユニークな取り組みが「戸越銀座まちなか防災フェスティバル」だ。震災やコロナなど住民の不安が年々、増大するなか、商店街の存在価値を見つめ直し、出てきたキーワードが「防災」だった。このフェス開催の意図を戸越銀座商店街振興組合の遠藤利夫さんに説明してもらった。

「スケールが大きくて何でも揃うということは、いざ災害が起きた時には商店街全体が備蓄庫のような存在にもなれると考えたんです。加えて、避難訓練などを義務的に地味に行うのではなく、楽しみながらやれば知識や経験がしっかり身につくだろうと。そんな思いでサッカーをしながら防災を学ぶとか、VRで防災を体験するなど工夫をこらしてフェスにした結果、集客にもつながったというわけなんです」(※)

人気にあぐらをかかず、絶えずアイデアを出し合いながら変化を続ける戸越銀座。商店街の存在価値を常に問い続ける真摯な姿勢が、住民や観光客から大きな共感を得ている理由だ。

戸越銀座商栄会商店街振興組合

戸越銀座商店街振興組合

戸越銀座銀六商店街振興組合

品川区平塚1・3丁目、戸越2丁目、豊町1丁目付近

商店数

約300店

道路が直線的に伸びているため、どこまでも商店が連なっているよう見え、壮観だ



武蔵小山商店街パルム

# チェーン店もまちの魅力に。 時代に合わせた組織づくりへ



武蔵小山商店街振興組合の副理事長を務める白井 隆浩さん(写真右)と、パン屋の2代目で常務理事の小嶺忠さん(写真左)。





都内最長を誇る、全長800mのアーケード。東急目黒線・武蔵小山駅から中原街道までを結ぶ「武蔵小山商店街パルム」は、大正時代から市井の人々の憩いの場として賑わい続けてきた歴史ある商店街だ。日本初の大型アーケード街としてオープンしたのは、1956年のこと。当時は、全長470m。「東洋一のアーケード」としてその名を馳せた。現在は、約240店舗が営業。活気あふれる地域の中心として人々の暮らしを支えている。

長年、活況を維持する理由は、しっかり組織化された商店街振興組合のたゆまぬ努力によるところも大きい。1952年にはクレジットサービスの前身とも言える、独自の割賦販売事業をスタート。現在は、クレジット機能付きポイントカードに変わったが、戦後間もない時代に画期的な事業として注目された。90年代には新たな情報発信の形を模索し、インターネット時代に先駆けて、商店街の公式ホームページを開設。また、お祭りや抽選会

など昔から多彩な行事を催し、現在も年間で大小20近くのイベントを実施している。

「主要なイベントは全部で8つ。3月から9月まではその準備と対応でずっと忙しいですが、その準備の大半を事務局が対応してくれています。一般的に商店街の事務局人員はせいぜい1~2名ですが、うちは約10人の職員が従事。振興組合が運営する直営立体駐車場と駐輪場、所有不動産など、先人たちが築いてくれた収益構造により人件費を賄えています」

創業70年の「家具のウスイ」店主で、武蔵小山商店街振興組合の副理事長を務める臼井隆浩さんはこう話す。商店街には老舗も多いが、時代の流れとともに店の入れ替わりが進んできた。近年は、こだわりのある生鮮三品という心躍る新出店が続いた一方、フランチャイズ店の増加も。個性豊かな店の集合体である商店街において、チェーン店の進出は客側、店側の双方から賛否が集まりがちだ。しか

し「ネガティブに捉えていない」と同組合の常務理事、小嶺忠さんは話す。「チェーン店であっても、結局そこで働いているのが人間であることに変わりはない。大切なのはその人の人間性であり、人同士の繋がりだと思えます。チェーン店の人たちにも声をかけ続けて、我々理事たちも積極的に働きかけています」

そうした努力が実り、青年部を中心に現在はフランチャイズ店のメンバーとの交流も盛んになってきたそうだ。臼井さんもそうした状況に希望を見出している。

「先人の組織づくりがしっかりしていたから、課題にも都度対応してこられた。とはいえ、駅前の開発が進み、今後は商店街としてより大きな難局を迎えることになると思う。フランチャイズ店も含め人との繋がりを重視し、泥くさい部分を今頑張ってるので、時代に合わせた新しい体制づくりを柔軟に考えて実現していきたいと考えています」



武蔵小山商店街振興組合  
品川区小山3-23-5(商店街事務所)  
商店数\_\_  
約240店

平日も活気あふれるアーケード。都心部では珍しく大型駐車場完備



大井光学通り商店街

# ブランディングの基本は、点ではなく、 面としての魅力創出



「大井更科」の三代目店主であり、商店街会長の増子忠広さん





JR京浜東北線大井町駅ロータリーからニコン大井製作所まで続く「光学通り」。通り沿いには多数の商店が立ち並び、周辺には企業も多いことから平日にはビジネスマンが行き交う賑やかなエリアだ。この地の変遷について、創業97年を数える地元の蕎麦屋「大井更科」三代目であり商店街会長を務める増子忠広さんが、こう振り返る。

「30年ほど前は商店も少なく、商店街そのものが存在してなかった。通りも明かりが少なく、治安も悪くて。そこで地元を支える企業であるNikonのとりはからいで行政の協力も得ながら多数の街灯を設置することになったんです。そのタイミングで商店街を作って、安心して利用できる街にしていこうという動きが加速していきました」

かつては先端的な大手量販店に勤務していた増子さん。老舗の店主ということもあり、商店街の中心的役割を担いながら周囲の結束を固めていった

という。「個々のお店が頑張るのは当たり前なんですが、点ではなく面で魅力を作っていかなければ街のブランディングとしてはうまくいきません。だから商店街としてのまとまりが必要だし、アイデアを出し合ってイベントなどを行っていかないと客足は遠のいてしまう。駅の東口は賑わっていたので、我々、西口も賑わいを作ろうと、地道に声掛けもしてきました」

こうした流れの中で立ち上がった商店街におけるマルシェでは、静岡県などと連携して物産を直売。好評を得て毎年開催されるイベントとして成長している。

現在では御子息に4代目としての経営を委ねたこともあり、より魅力的な街づくりに注力できるようになった増子さん。新たなアイデアを日々検討し、街の活性化に向けた大規模な企画実現に向けて奔走している。

「個店の魅力が向上しただけでは集客は見込めません。やっぱり必要なのは

街の環境整備。その観点で考えると、ウォークラブル（歩きやすい）な街づくりは理想のひとつだと思った。大井町駅周辺の再開発計画が進行していることもあって、同時に街の奥深くまで安心して歩けるような環境になれば商店街も活気づくでしょう。そのような提案を行ったところ、2025年から行政や大学と連携して実証実験を始めることになったんです。試験的に車道を一本潰して、人が回遊しやすいようにし、周囲で展開するマルシェやカフェを楽しんでいただくような仕掛けです。駐車スペースなども多少は犠牲になってしまいますが、車が少なくなると人が多くなった方がいいでしょう？私自身も、大勢の人々が回遊する駅周辺の情景を想像すると高揚しますね」

大井光学通り商店街  
品川区大井2丁目～3丁目、  
西大井1丁目付近  
商店数 20店



大井町駅周辺の再開発が進めば、光学通りにまた新たな賑わいが創出されるはずだ



二葉4丁目共栄会 戸越公園駅前南口商店会

# 白蛇がつなぐ人と縁。 地域一丸のまちおこし



二葉4丁目共栄会会長の遠藤 彰さん(写真右)と、戸越公園駅前南口商店会会長の原誠緒さん(写真左)。





東急大井町線・中延駅から徒歩5分。「東京の白蛇さま」として知られ、パワースポットとして親しまれる蛇窪神社がある。閑静な住宅街にありながら、平日でも参拝客が後を絶たない人気ぶりだ。鎌倉時代、この地に生息した白蛇が地元の人の夢枕にあらわれ、そのお告げによって弁天社が建立。そんな伝承から、このあたりはかつて蛇窪村という地名で栄え、1963年までは東急大井町線・戸越公園駅ももともとは蛇窪駅という名称だったという。蛇窪神社宮司・齊藤泰之さんは、そんな地域の歴史に着目。2013年から「白蛇」をキーワードにしたまちおこしの実現を目指し、近年では地域住民や町会、商店街、企業が手を結び、「スネークタウン」として様々な盛り上がりを見せている。

そのひとつが、「へびくぼ市」だ。開催は、60日に一度訪れる「つちのとみの日(己巳の日)」。戸越公園駅から蛇窪神社を結ぶ複数の商店街で様々なイベントを催している。

「今はあまり使われない言葉ですが、僕らはもともと神社のお膝元にある宮元商店街。宮元として力になりたいという気持ちですが、子どもの頃から遊び場だった神社に今では多くの人に来てくれるようになって嬉しい。へびくぼ市をきっかけに人々との交流が増え、商店街にとっても自分にとってもプラスになっていると感じます」そう話すのは、米店の三代目で、二葉4丁目共栄会会長を務める遠藤 彰さん。バス通りの商店街は年々個店の数を減らしていたが、へびくぼ市へのマルシェ出店をきっかけに路面店の新規オープンに繋がったケースも。「人の流れが変わった」と遠藤さんは手応えを感じている。

戸越公園駅前南口商店会・会長であり、創業80年の「三栄の家具」を営む原誠緒さんもまちおこしに尽力するキーパーソンだ。約50店からなる同商店街では、約2000人の動員数を誇るハロウィンイベントをはじめ、催事やセールを定期的に開催。積極的に

ファン作りに取り組んできたが、白蛇効果によるさらなる地域活性化に期待を寄せている。

「神社で飼育する白蛇二匹のうちの一匹を商店街の広場に移動して展示したり、白蛇にちなんだオリジナルグッズやお土産づくりを進めたり、参拝客に戸越公園駅まで足を運んでもらうための仕掛けを考えています。うちの商店街に接する都道の再開発が進んでいて、商店街も過渡期。1つの通りだけでなく、地域そのものが商店街として機能する形が理想だと考えています。そのためにも商店街の枠を越えたまちおこしには力を入れていきたい」

幸運を呼ぶ守り神、白蛇を中心にした地域活性化は、今後もますます進んでいきそうだ。

二葉四丁目共栄商店会  
品川区二葉4丁目付近  
商店数\_\_  
12店

戸越公園駅前南口商店会  
品川区戸越6丁目付近  
商店数\_\_  
50店



蛇窪神社が面する、二葉四丁目共栄商店会の通り。新旧の店が並ぶ

中延商店街 / 荏原町商店街

## 近隣商店街とも手を携えて、 イベントでの活性化を目指す



中延商店街振興組合の理事長を務める浅海直一さん(写真右)と、荏原町商店街振興組合理事長の市村由美さん(写真左)。





東急池上線の荏原中延駅から、東急大井町線の中延駅までを結ぶ約330メートル。東京タワーとほぼ同じ長さというこの通りは、品川区内でも歴史が古いアーケード商店街として知られる。生鮮三品が揃うほか、飲食店、衣料品店、インテリア、薬局、クリニック等、バラエティに富んだ約150店が営業する地元密着型の商店街だ。

「昔は、顔見知りだらけの商店街が嫌で嫌で仕方なかった。社会人になって外に出て、あらためて地元に戻ってくると、その良さを再認識した。この町並みをずっと維持できるように……。そんな使命感を持って商店街の活動を続けています」

そう話すのは、金物屋の三代目店主であり、中延商店街振興組合の理事長を務める浅海直一さん。「何もしなかったら衰退する一方。そのためにできることはやっていきたい」との言葉通り、中延商店街では通年、様々なイベントを企画。たとえば、新生活がスタートする4月は、「ポイントカード新規会員

募集キャンペーン」を実施。大がかりなものといえば、隔年で『中延ねぶた祭り』『中延よさこい祭り』を開催。夏休みの最後の日曜日には、100円で様々な縁日を楽しめる「こどもランド」を開催し、約1000人もの子どもが訪れるという。

「イベントは、毎月やっています。イベント自体の売上も個店もそんなに儲かる訳ではないんです。ただ、呼び込みには非常に役立つし、商店街を活性化させるには効果的。イベントを通して商店街を、お店を知ってもらい、別の日買い物に来てもらう。そうした波及効果に繋がればと思っています」

商店街におけるイベント開催の目的について、「新しく入ったお店の人と会話を持ったり、商店街会員同士の交流機会になる意義も大きい」と話すのは、中延商店街に隣接する荏原町商店街振興組合理事長の市村由美さん。東急大井町線・荏原町駅から南へ延びる仲通りと、線路と並行する三間通りに位置する約120店からなる荏原町商

店街。ここで飲食店を営んでいた市村さんは、2021年に引退。「今まで世話になった商店街に恩を返したい」と、理事長を引き受けた。商店街を横切る緑道や広場を活用するなどして、様々なイベントを開催しているが、市村さんが現在意欲を燃やしているのが中延商店街との連携イベントだ。

「自分たちより一世代前の時代は、近隣の商店街はいわば競合相手。関係も断絶していたようだけど、今はお互いに協力して共存していきたいと考えています。去年は、認知症サポーターの方が企画する普及啓発イベントで、2つの商店街が協力してスタンプラリーを開催しました。いずれは共通のポイントカードを作るなど、商店街同士がうまく連携していけたらと考えています」

中延商店街振興組合  
品川区東中延2-7-19(商店街事務所)  
商店数\_\_  
約150店

荏原町商店街振興組合  
品川区中延5-6-16(商店街事務所)  
商店数\_\_  
約120店



飲食店、雑貨店などそれぞれに個性豊かな店構えの商店が揃う荏原町商店街



次世代リーダーたちの挑戦

北品川本通り商店会

# 東海道の活気を、次世代へとつなぐために

電柱がないっていいでしょ？

吉本真也さん  
「ヘアサロンよしもと」

関義晴さん  
「関生花店」

外国人のお客さん、  
ウェルカム！

瀬戸瑠美さん  
「Dear Life-Ethical×Fitness-」

長谷川信一郎さん  
「ゲストハウス品川宿」





北品川駅付近を起点として、東海道沿いにズラリと連なる商店街。行灯、街路灯、石畳、各店舗の雰囲気も含め、伝統を感じさせる町並みが統一感をもって目に飛び込んでくる。江戸時代から旅籠や料理屋、貸座敷などが軒を並べ、東海道五十三次の中でも一番目の宿場町として多くの人々で賑わった通りだ。北品川本通り商店会で理事を務める瀬戸瑠美さんは、こう説明する。

「商店会の先輩方は江戸時代の面影を残そうと、当時の道幅を守るということをとても大事にされていて。そのようにかつて賑わった東海道の雰囲気を守ろうという意識が、町全体に根付いていると感じます」

再開発によって町の雰囲気が壊されないよう、できるだけ各店舗にはファサードの設置や暖簾がけなどを奨励。2012年には電線類を地中化し、歴史的景観を守りながら町を活性化するという景観整備事業も行われた。

同じく商店会で理事を務める吉本真也さんが町全体の強い意志について、こう付け加える。

「マンションの一階にはなるべくテナント店舗を入れていただくよう働きかけたり、宿場町として繋がりのある静岡・三保の松を植栽として推奨して街道の雰囲気を維持できるようお願いしたり。商店会だけでなくまちづくり協議会という団体や住民も含めて、景観を守ろう、賑わいを維持しようという意識がとても高いで

すね」

地元で生花店を営む理事の関義晴さんはこう話す。

「どんどん人が増えて、賑わえば賑わうほどいいということでもなくて。昔ながらの東海道の雰囲気を守りながら、ちょっと静かで落ち着ける場所でもあってほしい。そんなニュアンスを商店街の店主たち、住民が共有できているので町が良い方向へ向かっていけるのかなと感じています」

商店会役員は10名程で、年齢や性別もバラバラだが、商店街の活性化につながるアイデアは受け入れられやすいという。石渡健夫会長は若手メンバーを理事に誘い、信頼を寄せるとともに彼らに企画から実行までを任せる組織づくりをしていることも一役買っている。こうした街道沿いならではのオープンな空気の中、皆が一丸となって人流確保に務めているという。外国人客も多い「ゲストハウス品川宿」で働く長谷川信一郎さんも商店会理事の一人。これからの時代、町の賑わいを維持するためには10代、20代の若い世代に訴える施策や、外国人でも楽しめる環境づくりが大切だと話す。

「僕自身が外国人のお客さんを銭湯に連れて行って、お風呂の利用方法を教えてあげたり、通訳を買って出たり。各店舗でもできるだけ多言語メニューを用意してもらうなど、インバウンド客への対応も商店会としては意識しています」

瀬戸さんはこう付け加える。

「あとはやっぱりSNSでの情報発信ですね。外国人観光客はもちろん、若い世代に向けたSNSの活用は非常に大切。たとえば写真映えするスポットをどんどん紹介することで、お客さんの側からSNSを使って商店街の情報を広めてくれますから。そのような拡散につながるような情報発信ができれば日々、思案しています」

このエリアでは品川神社例大祭や、しながわ宿場まつりなど大規模なイベントも目白押し。商店会では次々と町を活性化するアイデアが飛び出し、音楽や漫才を町中で楽しめるイベントも企画中とか。今後の展開が益々楽しみなエリアと言えるだろう。

北品川本通り商店会  
品川区北品川1丁目付近  
商店数 84店



次世代リーダーたちの挑戦

のんき通り商店街

## あせらずのんきに、活気を取り戻す

葛形京子さん / イタリア料理店「ピサロ」

飲食店への挑戦者、  
大歓迎です！







味のある名前が印象的な、のんき通り商店街。JR横須賀線・西大井駅からほど近いこの商店街は、30年ほど前まで他の町からも人が集まるような、活気のある場所だった。ところが近年では店主の高齢化などで店舗数が減少。イベント等も次第に行われなくなってしまっていた。そんな中、再びこの場を盛り上げようと2023年から商店街会長になったのが葛形京子さんだ。スポーツインストラクターやバルーンアーティストとしての顔を持ちつつ、両親が半世紀前から営むイタリア料理店「ピサロ」を舞台に、週末の夜限定で「缶詰バー」なる仕掛けをスタート。店内の缶詰をお酒と一緒に楽しめるといふこのちょっとした試みが、「飲み屋がない」と嘆いていた地元住民の喝采を浴びている。

そんな葛形さんが商店街の会長になったのは、ユニークなイベントの復活がきっかけだ。「『おかみさんの日』というイベントが昔、あったんですよ。商店街の女性陣が

中心になってやるお祭り。その日は男性が裏方として働く。車を通行止めにして、飲食店が外にお店を出すんです。長らくやっていなかったのですが私が復活させました。子供向けの催しやフリーマーケットも企画して、前回開催した時は、竹下通りのようだとと言われるくらいにたくさんの方が来ましたよ」

店舗が閉店し空き地となった場所は、マンションなどの住居になりがちだ。それにより店舗数は減っていくものの、決して人が減っているわけではなく、そこに住む若い世代がイベントに合わせて来場するケースもあるようだ。また、活気のあった頃の商店街を利用して人々の子世代が商店を訪れることもまだまだある。西大井は東京中心部へ交通の便もよく住みやすい場所なので、まだまだ商店街が盛り上がる可能性はあると彼女は話す。

自由な発想でなんとか地元の賑わいを取り戻そうとしている葛形さん。アイデアさえあれば再びこのエリアが発

展する可能性はあると信じている。「やっぱりお店が増えて欲しいですよ。あとは若い世代を取り込んで、30代、40代が活躍できる商店街になればいい。店舗は持てないけど飲食はやりたい、という夢のある人も少なくないので、イベントでの出店、一時的な出店でも大歓迎です。それと、商店街の企画は男性主導で行われることが多いのですが、女性ももっと元気に活躍できる商店街になれば楽しいですよ」

自身の店を盛り上げることや、商店街に新たなアイデアを注入することを、自然体で楽しむ葛形さん。彼女の静かな情熱が、のんき通りの商店街に少しずつ、浸透し始めている。

のんき通り商店街  
品川区二葉3丁目、豊町5丁目付近  
商店数 9店



20年前は店も多く、活気があふれていた。そんな商店街の復活を目指す



次世代リーダーたちの挑戦

大井東口商店街

# 目標は、現状維持。この風景を残していきたい

女性も安心して  
遊べる場所です。

おひとり客も  
大歓迎！

「Bar ALLIN」「ゆいまーる」  
大城菜摘さん

「立ち飲み処」「CHEEKY BEEF」  
亀卦川裕章さん

「パブリカ」  
田中智恵さん





CUT' N by THE HOPE | 紅桜「顔水, Super Fly, Freestyle」  
若手理事の発想で映像を作品としてアーティスト、映像制作会社、  
商店街理事が街の活性化を図り制作したミュージックビデオ



JR京浜東北線・大井町駅の改札を出て徒歩1分。昭和ノスタルジーな雰囲気漂う、ディープな横丁がある。かろうじて一人一人通れるほどの狭い路地。そこに、個性的な飲食店が所狭しと建ち並ぶ。戦後の闇市から発展したといわれる東小路飲食店街こと、大井東口商店街だ。

「癖が強いからはじめは入りづらいかもしれないけど、1回来たらハマる人が多い。治安もいいし、お客さん同士も仲が良い。気軽に来てというより、ぜひ勇気を持って遊びにきてくださいと言いたいですね」

そう話す亀卦川裕章さんは、22歳の時に最初の店をスタートし、現在4店を運営。大井東口商店街振興組合の理事になったのは、24歳の時。現在は副理事長を務める亀卦川さんいわく、「老若男女問わず、友達感覚で自然にみんなが1つの輪になれる」という点がこの組合の長所だという。会合は月1回。集まる理事の年齢層は幅広く、上は70代から下は20~30代の女性たちも名

を連ねる。

「お客さんの質が高く、平和なまち」と話す大城菜摘さんは、この場所に惚れこみ商店街内で2つの店を経営。前理事の誘いで4年前から理事を務める。スタンディングバーの店長を務める田中智恵さんは、自ら立候補して理事になった。「道端のゴミをなくしたかったから」という立派な目的があったの挙手だ。

「古い通りだから汚くていいじゃんっていうのは私は嫌で。ピシッてゴミ一つなかったらカッコイイじゃんって思う。だから自主的にゴミ拾いをしていたんだけど、そうすると段々色々な店の人も意識してくれるようになって。理事をやるようになって、色々な人と知り合えて話せたのもよかった。ポイ捨てとかは、めっちゃ減りましたよ」

他にもたばこのポイ捨て防止のため、商店街の一角に喫煙所を整備。亀卦川さんの指揮の下、商店街の仲間達が協力してDIYで屋根とスペースを作ったという。

「例えば何か壊れたものがあったら、うちの商店街はお金をかけずに自分たちで直すことが多い。問題があった時は、みんなで協力して解決する。業態もバラバラだし統率をとるのも難しいから、商店街としてイベントを開催するといったことはないけど、結束力はあるし仲は良いですね」

大井東口商店街では、はしご酒を楽しむ客が多い。各店が客を奪い合うのではなく、むしろ積極的に客を送り合うという、極めて良好な関係性が日頃からナチュラルに築かれている。

「なんか無理に商店街を盛り上げていくことは考えてなくて、現状維持がまさに理想。再開発の話も聞こえてくるけど、できるだけ長くこの風景を残していきたいと思いますね。それぞれが自由に楽しみながら」

大井東口商店街振興組合  
品川区東大井5丁目付近  
商店数\_\_  
62店



狭い路地裏に個性豊かな店がひしめき合う、ディープな横丁だ

次世代リーダーたちの挑戦

不動前駅通商店街

# 各店舗の想いが、お客さんを引き寄せる魅力に

遠山健二さん / 洋食屋「アミティー」

不動前駅通商店街は  
イベント目白押し！





東急目黒線・不動前駅を中心に南北へ広がる活気あふれた町並み。この一帯の商店群は1946年、不動前銀座商店街と名付けられ、以来、近隣住民の増加とともに発展を続けてきた。2000年には目黒線の高架化や地下鉄三田線、南北線の相互乗り入れなどもあり乗降客が3万人を超え、さらなる賑わいを見せるようになる。

「平日でも人の往来は多いんですが、お客さんの大半は近隣住民か、近所に勤めていらっしゃる方々。決して観光地ではないので、やっぱり我々は住民の皆さんを意識した料理やサービスを提供しなければならないとあらためて感じています」

駅から徒歩1分の好立地で約半世紀もの間、営業を続ける洋食屋「アミティー」のシェフ、遠山健二さんはこう話す。同店は「デカ盛りハンバーグ」や「昔ながらのナポリタン」といった親しみやすいメニューのほか、テイクアウト用のお弁当を求めて連日、賑わう。

「お弁当を買いに来るのは常連さんが多いので、この方はご飯大盛りとか、この方は梅干しが嫌いなど、それぞれの好みを理解した上でちょっとした会話を挟みながらできるだけ丁寧な接客を心がけています。こういうやり方が町の雰囲気合っていたのか、おかげさまで繁盛しています」

そんな遠山さんは現在、不動前駅通商店街振興組合の理事を務める。組合内の空気や各種施策について聞いてみた。

「僕が子どもの頃と比較しても店は増え続けていて、活気も年々、増していると感じます。現在、組合に所属するのはおよそ80店舗で、理事会は月一回程度。自分のように若い世代の二代目、三代目が多く、町を盛り上げる様々なアイデアがどんどん出てきますね。賑わっているといても不動前駅自体が観光の目的になるかといえばそうではありません。ですから油断すれば客足は遠のくという危機感を全員が持って、イベントなどで町に来ていただ

く機会を増やさなければ商店街の未来はないことを理事会の皆が理解しているんだと思います」

最も大きなイベントであり商店街の知名度向上にも大きく貢献しているのが「不動前ほおバルよくバルはしご酒」。美味しいお酒とこだわりの料理がリーズナブルに楽しめる。組合では、他にも「子ども縁日」や「写真コンテスト」など盛りだくさんのイベントで人流の増加に努めている。

「個々の店が自分たちの町のことを大好きで、未来永劫、繁栄してほしいと先のことまで考えている。その気持ち大切ですし、お客さんにも僕らのそういう想いが伝わっているからこそ、リピートしていただけるんじゃないかと。組合の活動は大変な時だと思う時もありますが、皆の想いに支えられて自分も頑張っていますね」

不動前駅通商店街振興組合  
品川区西五反田4丁目、5丁目付近  
商店数 73店



不動前駅通商店街は、駅を中心に東西に広がっている

## 商店街エリアサポート事業

商店街活動をサポートするために。  
商連では、伴走支援型事業を行っています。

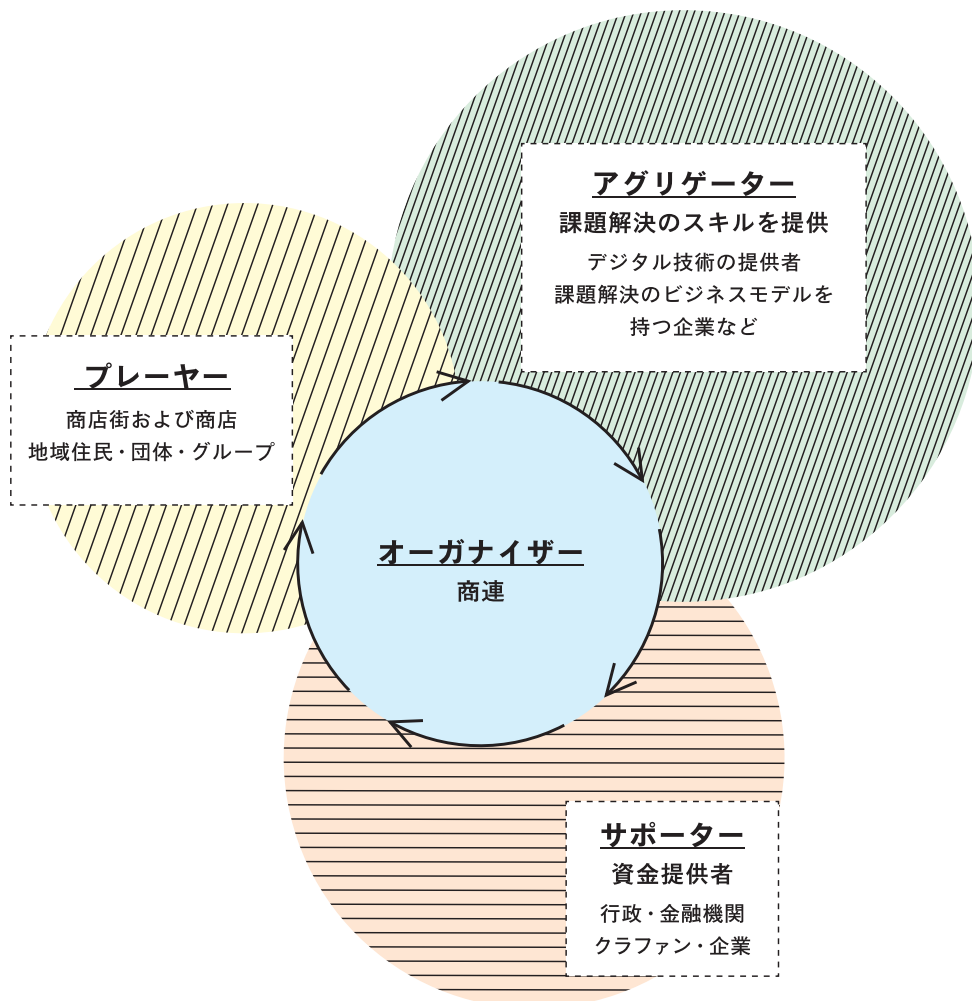
商店街が抱える課題やニーズを掴み取り、  
解決のためのアドバイスや専門家等への繋ぎ合わせをしていくことを目的に、  
区と商連で連携し商店街への巡回を中心とした伴走支援をしています。  
商店街と商連とが連携を深めていく根幹事業として、  
日常的に支援ができるよう今後も推進していきます。

Mission

日々の商店街業務に関すること

商店街の存続に関すること

Mission



※商連事務局では、商店街や各種団体との繋ぎ役を担っています。  
地域との接点づくりにご興味のある企業様はお気軽にご相談ください。



## Think Globally Act Locally

### ローカルに根差した循環型経済にむけた環境教育

環境問題は誰かが配慮するものではなく、全ての人が取り組む時代へ。  
多様なスキルや価値観をもつ異業種集団である商店街だからこそできる  
次世代を担う子供たちに向けた社会的サービスの提供。  
「自ら考え、自ら行動することの大切さ」を地域のお店でワークショップを通して学んでほしい。  
そんな願いで様々なイベントを展開しています。



### 木っかけプロジェクト

#### 国産間伐材有効活用事業 (2013～)

間伐材×お店をキーワードに区民にむけた体験型環境学習コンテンツを展開しています。

#### 東京の森あそび木づかいツアー (2016～)

東京の森の現状と木の流通を学べる2日間。

東京都青梅市成木への日帰り間伐体験バスツアーと戸越の材木店での間伐材を使ったワークショップを開催

#### KIDS WONDER STREET (2022～)

福井県木材組合連合会との共催。区内商店街を会場に木育ひろばやマルシェを開催



### Smile Job Adventure (2023～)

#### 地球に優しい環境活動推進事業

エシカル消費に取り組む品川区の企業や商店街のお店などの「こども社員」として、各社がビジネスを通じてどう社会貢献しているのかを学んだ上で、商店街でのワークショップ運営を体験するイベントを開催。

商店街の来街や販促、そして地域の交流につながる事業やイベントを開催しています。

## 品川区内共通商品券事業

品川区内の小規模事業者のために大型店対策として平成元年11月からスタート。1年間で約20万枚(1億円)発行しており回収率は約90%、取り扱い店舗数は品川区内68商店街、約1,600店舗。都内提携タクシー 7社でもご利用いただけます。春と秋には、通常商品券よりさらにお得なプレミアム商品券を発行しています。



## 大商業まつり

加盟商店街のお店、交流のある地方、そして企業・団体とともにつくる文化祭的なイベントを開催。



## レシートキャンペーン

対象商店街でお買い物したレシートを添付して応募すると抽選でふるさと小包が当たるといふ、郵便局との連携キャンペーン。中元売り出しの時期に開催。



## 販路開拓支援事業

2006年から個店支援事業の一環でスタート。地域の大型商業施設やイベントにて区内商店の催事開催。商店街への来街へつなげるための支援事業です。

実施場所：イトーヨーカドー大井町店、イオンスタイル品川シーサイド店、大崎ニューシティ他



## 商店街大好き(商連広報番組)

商店街の楽しいイベントや取り組み、お得な情報を毎月お届け。ケーブルテレビ品川開局時から続く長寿番組。加盟商店街の魅力や季節ごとの情報を発信しています。

放送：品川区民チャンネル11ch  
午前10:45~50 / 午後1:45~50  
制作：ケーブルテレビ品川





## 「地域における商店街のパーパスとはなんだろう？」

商店街活動というとイベントが目立がちだが、イベント自体は目的ではなく、手段に過ぎない。イベント開催で重要なのは、実施までの過程で育まれる商店街内、外の関係性の構築なのだ。どの商店街役員さんもこの点で地道な努力をしている。

こうした普段は見えにくい部分をクローズアップしたくて、今回のリニューアル(第4版)では商店街役員さんへのインタビューをメインに据えた。私たちが支え、応援するのは、まさにこの人たちなのだから。

表紙のイラストは商店街を花畑に見立てて描いてもらったものだ。1つ1つの花はお店で、それぞれのエリアで個性ゆたかな花たちが咲いている。そこには、計画的に作られた花壇では見られない美しさと面白さがある。

その魅力をより多くの人に伝えていけたら、商店街はもっともっと楽しくなる。次世代に残すに値する未来を作るために、できることはきっとまだまだたくさんある。



2024年10月

発行：品川区商店街連合会  
<http://shoren.shinagawa.or.jp/>

編集・制作：株式会社ミゲル  
デザイン：瀬戸山雅彦  
イラスト：ヒラノトシユキ



